

インマヌエル中目黒キリスト教会

2016年8月21日聖日礼拝

エステル記連講(8)

「自分たちのいのちを守る」

エステル記

8章9～17節、9章1～19節

竿代照夫牧師

聖書朗読 旧約聖書

エステル記

8章9～17節、9章1節～19節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会)を使用しています

第二版の聖書は 774 ページ

第三版の聖書は 845 ページ

- 9 そのとき、王の書記官が召集された。それは第三の月、すなわちシワンの月の二十三日であった。そしてすべてモルデカイが命じたとおりに、ユダヤ人と、太守や、総督たち、およびホドからクシュまで百二十七州の首長たちとに詔書が書き送られた。各州にはその文字で、各民族にはそのことばで、ユダヤ人にはその文字とことばで書き送られた。
- 10 モルデカイはアハシュエロス王の名で書き、王の指輪でそれに印を押し、その手紙を、速く走る御用馬の早馬に乗る急

使に託して送った。

- 11 その中で王は、どこの町にいるユダヤ人にも、自分たちのいのちを守るために集まって、彼らを襲う民や州の軍隊を、子どもも女たちも含めて残らず根絶やしにし、殺害し、滅ぼすことを許し、また、彼らの家財をかすめ奪うことも許した。
- 12 このことは、アハシュエロス王のすべての州において、第十二の月、すなわちアダルの月の十三日の一日のうちに行うようになっていた。

- 13 各州に法令として発布される文書の写しが、すべての民族に公示された。それはユダヤ人が、自分たちの敵に復讐するこの日の準備をするためであった。
- 14 御用馬の早馬に乗った急使は、王の命令によってせきたてられ、急いで出て行った。この法令はシュシヤンの城でも発布された。
- 15 モルデカイは、青色と白色の王服を着、大きな金の冠をかぶり、白亜麻布と紫色のマントをまとって、王の前から出て来た。するとシュシヤンの町は喜びの声に

あふれた。

16 ユダヤ人にとって、それは光と、喜びと、楽しみと、栄誉であった。

17 王の命令とその法令が届いたどの州、どの町でも、ユダヤ人は喜び、楽しみ、祝宴を張って、祝日とした。この国の民のうちで、自分がユダヤ人であることを宣言する者が大ぜいいた。それは彼らがユダヤ人を恐れるようになったからである。

【 9 章 】

- 1 第十二の月、すなわちアダルの月の十三日、この日に王の命令とその法令が実施された。この日に、ユダヤ人の敵がユダヤ人を征服しようとして望んでいたのに、それが一変して、ユダヤ人が自分たちを憎む者たちを征服することとなった。
- 2 その日、ユダヤ人が自分たちに害を加えようとする者たちを殺そうと、アハシュエロス王のすべての州にある自分たちの町々で集まったが、だれもユダヤ人に抵抗する者はいなかった。民はみなユダヤ

人を恐れていたからである。

- 3 諸州の首長、太守、総督、王の役人もみな、ユダヤ人を助けた。彼らはモルデカイを恐れたからである。
- 4 というのは、モルデカイは王宮で勢力があり、その名声はすべての州に広がっており、モルデカイはますます勢力を伸ばす人物だったからである。
- 5 ユダヤ人は彼らの敵をみな剣で打ち殺し、虐殺して滅ぼし、自分たちを憎む者を思いのままに処分した。

- 6 ユダヤ人はシュシヤンの城でも五百人を殺して滅ぼし、
- 7 また、パルシャヌダタ、ダルフォン、アスパタ、
- 8 ポラタ、アダルヤ、アリダタ、
- 9 パルマシュタ、アリサイ、アリダイ、ワイザタ、
- 10 すなわち、ハメダタの子で、ユダヤ人を迫害する者ハマンの子十人を虐殺した。しかし、彼らは獲物には手をかけなかった。

- 11 その日、シュシヤンの城で殺された者の数が王に報告されると、
- 12 王は王妃エステルに尋ねた。「ユダヤ人はシュシヤンの城で、五百人とハマンの子十人を殺して滅ぼした。王のほかの諸州では、彼らはどうしたであろう。あなたは何を願っているのか。それを授けてやろう。あなたはなおも何を望んでいるのか。それをかなえてやろう。」
- 13 エステルは答えた。「もしも王さま、よろしければ、あすも、シュシヤンにいるユダヤ人に、きょうの法令どおりにす

ることを許してください。また、ハマンの十人の子を柱にかけてください。」

14 そこで王が、そのようにせよ、と命令したので、法令がシュシャンで布告され、ハマンの十人の子は柱にかけられた。

15 シュシャンにいるユダヤ人は、アダルの月の十四日にも集まって、シュシャンで三百人を殺したが、獲物には手をかけなかった。

16 王の諸州にいるほかのユダヤ人も団結して、自分たちのいのちを守り、彼らの敵を除いて休みを得た。すなわち、自分

たちを憎む者七万五千人を殺したが、獲物には手をかけなかった。

17 これは、アダルの月の十三日のことであって、その十四日には彼らは休んで、その日を祝宴と喜びの日とした。

18 しかし、シュシャンにいるユダヤ人は、その十三日にも十四日にも集まり、その十五日に休んで、その日を祝宴と喜びの日とした。

19 それゆえ、城壁のない町々に住むいなかのユダヤ人は、アダルの月の十四日を喜びと祝宴の日、つまり祝日とし、

互いにごちそうを贈りかわす日とした。

説教

エステル記連講（ 8 ）

「自分たちの命を守る」

エステル記

8章9 ~ 17節、9章1節 ~ 19節

竿代照夫牧師

主テキスト

王の諸州にいるほかのユダヤ人も
団結して、自分たちのいのちを守り、
彼らの敵を除いて休みを得た。

(エステル 9 : 1 6)

1.(前回の要約)涙の嘆願(7章～8章前半)

- ・エステルは自分と民族の助命を嘆願する(7:3)
- ・エステルはユダヤ人抹殺命令の取り消しを嘆願する(8:3～5)
- ・新法に関する王の計らい(8:7～8)

2.ユダヤ人の自衛措置が許される (8:8 ~ 14)

- ・新しい法令の制定

ユダヤ人抹殺命令の2か月後

- ・法令の内容

「12月13日、ユダヤ人は自衛のため、
彼らの敵を滅ぼし、彼らの財産を奪う
こと許す」

3. モルデカイの栄光 (8:15 ~ 17)

- ・モルデカイの権威と威光
- ・ユダヤ人の繁栄と勢い
ユダヤ教改宗者の増加

4. 敵の壊滅 (9:1~10)

- ・ユダヤ人は団結して、ことを進めた
- ・行政当局の協力を得た
- ・反ユダヤ主義の確信犯を滅ぼした
- ・彼らの財産には手を出さなかった

5. 壊滅作戦の延長 (9:11~15)

- ・ 壊滅作戦の報告
- ・ 一日の延長願い

6.祝宴の日(9:16~19)

- ・祝宴の日の制定と実行

おわりに:

サタンの活動への 完全勝利を 目指そう

神に従いなさい。そして、悪魔に立ち
向かいなさい。
そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ
去ります。(ヤコブ4:7)